

小田原市教育委員会協議会会議録

1 日時 平成18年8月21日(月)午後4時40分～午後5時20分

場所 小田原市役所 議会全員協議会室

2 出席した教育委員の氏名

1番委員 島田祐子

2番委員 青木秀夫 (教育長)

3番委員 桑原妙子

4番委員 安藤實英 (教育委員長)

5番委員 横田俊一郎 (教育委員長職務代理者)

3 説明等のため出席した教育委員会職員の氏名

学校教育部長 鈴木紀雄

生涯学習部長 鈴木敏

生涯学習部次長 清水清

教育政策課長 曾我勉

学校教育課長 椎野美乃

学校教育課長補佐 佐宗修二

(事務局)

教育政策課主査 前島正

4 議事

(1) 報告事項

教職員の不祥事と今後の防止策について

(学校教育課)

5 議事の概要

(1) 報告事項

教職員の不祥事と今後の防止策について(学校教育課)

学校教育課長...お手元にごございます資料1をご覧いただきたいと存じます。「教職員の不祥事と今後の防止策について」ご説明させていただきます。過日、この内容につきましては、各委員の皆様には一報を入れさせていただいたところですが、正式に処分等ができましたので改めて協議会において、今後の防止策を踏まえご協議いただきたいと存じます。

懲戒処分の内容は、中学校教諭4名に減給10分の1・3月、中学校長に対して戒告の処分でございます。事故の概要は、平成18年5月23日、2泊3日の修学旅行の初日でございます。その日の午後2時15分から2時55分にかけて、場所は近鉄奈良線近鉄奈良駅近くの中華料理店にて、中学校教諭男性4名がビールを一杯づつ飲んだもので、その状況を奈良公園で自主行動をしていた生徒が目撃したものです。

事故後の経過でございますが、修学旅行が終わりまして、校長が4名の教諭に事実の確認を行い指導しております。その後、市教育委員会に対して学校から事故報告書が提出されました。あわせて保護者と生徒に対して、6月14日水曜日の進路説明会のおりに事故の説明と謝罪をしております。市教育委員会に提出された報告書をもとに事情聴取を行い、6月30日付けで県教育委員会に事故報告を提出し、県教育委員会はその後事情聴取を行い、その結果として7月27日付けで県教育委員会より先ほど述べました処分がくだされました。

その事故が起きた後の市教育委員会の対応でございますが、ちょうど県教育委員会から「事故・不祥事防止の緊急アピールについて」が出ていたこともあり、それと併せてすぐに各学校にFAXで通知を出しております。その後、7月3日の小・中学校校長会議と7月10日の教育委員会と校長会との連絡調整会議で、この事例の説明をし「服務規律について」の周知・徹底を図るように指導をしております。通知という形では、7月18日付けで各学校長に「教職員の綱紀の保持について」を通知し、また重ねて7月31日の教頭研修会で教職員の服務規律の徹底及び不祥事防止の徹底を教育委員会として指導いたしました。

本日は、今回の不祥事に限らず、今まで何件か発生した不祥事を今後なくすために、現在取り組んでいる、そしてこれから取り組みます防止対策に

ついてご説明いたします。

資料の一番下の「5市教育委員会と各学校の取り組み」のところに次の点を掲げ、という形で三つの取り組みがございます。一点目は、「教職員の服務規律の徹底と不祥事に対する認識の高揚」とありますが、しかしこれだけでは、事後処理になり本当のところの解決にならないということで、二点目の「教職員の資質向上、指導力の向上を目指した取り組みの充実」が大切だと思っておりますし、併せて三点目の「教職員相互の人間関係を深める明るい職場づくり」ということでお互いに指摘しあい、支えあえる明るい職場づくりが必要と考えております。この三点につきまして、先ほどの校長や教頭に対してのところでは必ず話題として取り上げ、市教育委員会も学校も取り組んでいくように呼びかけをしております。

この三点に関わって、様々な取り組みがございますが、特に今年度は重点的に次の三点の具体的な取り組みを行い、今後強化していこうというものです。一点目は、「事故防止日常点検表」というもので、雛型は市教育委員会で作成して、各学校が実情に合わせて手直しをして作っています。それを毎月全教職員がチェックを行い、管理職が必ず目を通して必要があれば対応していくというのですが、それを確実にやっていくというものです。二点目は、現在、事故防止研究委員会というものを立ち上げておまして、10月中旬あたりに事故防止資料が作成できる予定となっております。この資料を使って各学校の事故防止会議の活性化を図り、一人一人の教員が自分のこととして事故防止が捉えられるように活用をしてきたいと考えております。もう一点は、合同事故防止会議という組織を立ち上げておりますが、各学校にあると同時に市教育委員会でも合同事故防止会議がありまして、その両方で事故防止に向けた取り組みを考え、実施し、教員に認識を高めてまいりたいと考えております。

また、教育委員の皆様のご指導・ご意見を伺い、事故防止に繋がりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

桑原委員...資料の下から3行目の「事故防止日常点検表」とは、具体的にはどのような内容のものなのでしょうか。

学校教育課長...昨年の9月から始めているものでございますが、内容は項目として25程

度ございまして、児童生徒への指導に関するもの、交通事故・違反に関するもの、個人情報管理に関するもの、公金管理に関するもの等いくつかの大項目がございまして、その大項目ごとに、例えば児童・生徒への指導に関するものの一つ目であれば「児童生徒指導の際に複数の教員で指導にあたっていますか」という具体的設問になっています。それを各教員が自分で、
、
、
×ということで毎月チェックしまして、そして出来ていないものについては自分で見直すと共に、管理職に提出する中で管理職は学校全体の教員の状況を把握すると共に、必要に応じ面談等を行っています。

桑原委員...それを行うことで具体的な効果はあがっているのでしょうか。

学校教育課長...実際、その後も不祥事が発生しておりますので、これを行ってれば万全というわけではありませんが、昨年の暮れあたりに状況の把握をしたところでは、これを行うことによって、自分を見直す場が出来たとか、管理職からは、教員の状況がわかるとともに、それに応じて面談をしていますなどの意見が寄せられおり、一定の効果はあがっているものと感じています。

安藤委員長...今度のことはあってはならないことが起こったと感じています。社会全体が、教員だけでなくわれわれも含めてかもしれませんが、分別ある大人がいなくなったと思いますし、大人がみんな青年や少年のようになってしまったように感じています。そして社会性というものをもっと先生達は身に付けたほうが良いのではないのでしょうか。前から言っているとおり夏休みの研修などにおいて勉強を行ったか行わなかったかではなく、社会を知ってもらって自分が置かれている立場というものを感じてもらったほうが良いと思います。

私も子どもの命をあずかっている立場として、かなりストレスが溜まります。うちでは就職すると24時間保育士だよと言っているのですが、かなりプレッシャーかけているなと自分では思っていますが、信頼を得るためにはやむを得ないことだと思います。そのような中で、どこかでメリハリをつけて、きちんとしたリフレッシュ休暇のようなものを与えていかないと、ただ管理強化をしていくだけでは中々根本的な解決に繋がらないと思います。市民の理解を得ながら行わなければならないのかもしれませんが、ちゃんとリフレッシュできるような環境をつくる必要があると思います。今回

の事件は本当にあってはならないことであり、もう少し大人になってもらいたいと思います。

島田委員...私も同感で、細かいチェックで自己判断をしていくのも良いのかもしれませんが、この資料に書かれている「教職員の資質向上」という点にすべての問題があるような気がします。教師としては品格、資質を自覚することが、品格を持つことが大切だと思います。また、教師としての緊張感を持ってもらうためには、校長先生の力も大きいと思います。ですから、まず校長先生に品格を持ってもらって、それが教師に及ぶという形が良いと思います。

安藤委員長...私も子どもの命をあずかっている横田委員もそうだと思いますが四六時中緊張感を持っていると、そこから開放される時間がはっきりしないと感じています。教師にしても、休みをきちんととってもらって区切りをしっかりとつけることによって子ども達をしっかりと見つめていけるのではないかと思います。教育原理で勉強したのですが、ドイツの軍用犬の訓練士は夫婦喧嘩をした次の日は、その犬に近づかないそうです。人間の感情で犬を叱ったりするといざという時に人間を馬鹿にして、言うことをきかなくなってしまうと。なるほどなと思いました。ましてや、人間の子どもに対しては余計だと思います。私が前から言っているとおり先生方にもリフレッシュのお休みをとってもらって、子ども達に接する大きな気持ちを持ってもらいたいし、また社会性を身に付けてもらいたい。先生方は学校という中に潜ってしまっていて、社会とかが見えなくなっているのではないかと思います。大学を卒業して、すぐに学校に入る。社会にはたくさんの動き・考えがあることがわからないのではないかと、心配してしまいます。先生方には、しっかりと社会というものを学んでもらって、それを子ども達に伝えていってもらいたいと思います。

桑原委員...今、安藤委員長が言われたとおりリフレッシュの休暇をとることで、一度教育から離れることで違うものが見えてくることもあると思いますし、それと学校以外の所で先生自身が体験すると物の見方が変わってくると思います。指導要領みたいなものだけでなく、様々な角度で考えていけると思うのですが。

安藤委員長...社会人としての、大人として分別・自覚が足りないし、正直何を考えているのかという事件ですね。

青木教育長...小田原の学校・先生方を良くしようと思い頑張っているのですが、思っていることと現実とがちょっと違ってしまった事件ですね。修学旅行中の飲酒に関しては、私も中学の校長会で経験したことを踏まえて、この話を聞いたときに「え～」と思いました。校長は校外のしかも宿泊を伴う勤務中の飲食、アルコールに関する指導をちゃんとやっていたのかなという正直な思いがありました。というのは、数年前に修学旅行での飲食、特にアルコールについては社会的な問題にもなり、小田原地区において一切控えましょうという申し合わせをして今日に到っているので、当然校長先生は学校職員への指導は行っているものと思っていたのですが、現実には職員が食べたり飲んだりしている。結果として、校長が指導をしていなかったと言わざるを得ない。その中で感じたことは、人間とはそういうものなのかな、と。「そういうもの」とは、わかっていると思っても実はわかっていないことが子どもも大人もたくさんあるなど、大事なことはわかっていようともわかっていなくても徹底して指導することが大切である。そういうことに関して校長が仕事としてちゃんと指導していくことが大切であるということはこの事件を通してあらためて学びました。そういう意味も踏まえ、通知や会議、校内での研修などを更に徹底して行っていく必要がある。一番思うことは、災害などもそうですが忘れた頃にやってくるということで、このような事件・事故・不祥事に関しても発生した時には「わー」となる。しかし、何年間すると忘れてしまう。これは人間の歴史かもしれないが、この悪い歴史を繰り返さないためにも、その都度その都度、きちんと通知や会議、研修などを徹底して行っていく、そういう教育委員会の指導が大切であると思う。教育委員会としては、相手が当然行っていると思っていたことが行っていなかったということの結果が行為として現れてきたものであると。そういう意味からして校長が校長としての仕事をし職員の服務規律を徹底させるために日常的な管理や通知、指導、研修などが機能するような仕組みをつくることが求められていると思いました。

安藤委員長...私も教育委員の立場を離れて、一人の大人として感じることは子どもが大

人をどのように見たかと思うと、大人が大人として見られていないような気がする。大人が大人らしく、大人の分別、社会性が欠けている。最初に話したとおり、大人が青年、少年に成り下がってしまったのではないかと思うし、そのようなことを指摘されること自体が大人の権威が失墜していることではあるのではないかと思います。私が子どもの時に見た大人は本当の大人だったと思うし、そこに存在するだけで一步身じろぎするような存在だったような気がします。今の子ども達は例えば電車の中で平気で座り込んでいて、大人が来ても知らん振りしている。そのようなことが今の子ども達の大人に対する目線なのかなと。社会的な問題として捉えると、大人が大人らしくならないといけない。教育者にあっては教育を、そして子育てを楽しんでもらう、情熱を傾けてもらうことに力を注いで欲しいと思うし、あそこを管理、そこを管理することにより、情熱が薄まってしまうことはもったいない。本当に行って欲しいことは子ども達に情熱を傾けてもらうことである。よく法律がたくさんある国は最低な国と言われるが、泥棒がいなければ、泥棒に関する法律はいらない。何も法律のない国が一番良い国だと思うし、確かに管理強化していくことは再発を防止のために必要なかもしれませんが、子ども達に情熱を向けてもらいたい。そのためには、先生方にもっと社会性を身につけてもらって、幅広い人間になってもらい自分で感じたことを子ども達に伝えてもらいたい。100%良い先生ではなく、その子どもにとっては恩師というものが生まれてくると思うし、100人が100人全部良い先生というわけではなく、何人かが、人生の方向を示してくれるような先生が随所にいてくれれば良いなと思うのですが。

島田委員...たぶん、ビールを飲むという、そのことだけでなく、飲んでいる雰囲気というか、子どもがぱっと見たときに、例えば食前の梅酒を飲んでいたりして、その先生が学校で素晴らしい先生でみんなのあこがれの先生であれば、子どもは何も言わないと思うのですよ。飲んでいる時の雰囲気、そういうものを見抜いているのではないかと思うのですが。何かを行うことがダメというよりは、その先生の人格が問われているのではないかと思います。

安藤委員長...教育というのは最終的には人格の投与ではないかと思います。もちろん教育の技術は必要かもしれませんが、最後に自分の恩師となるのは人間性をもらえるか、もらえないかにかかると思うし、それがその子の一生を左右していくと思う。勉強がやる気になるのもならないのも、そういう先生方の姿勢だと思えますし、良い出会いがあれば子ども達にとっては幸せだし、会えなければ不幸せだと思う。

どうなんでしょうか、休みですが、リフレッシュ休暇といいましょうか、先生方にしっかりとってもらうことはできないのでしょうか。私自身のことを言えば、保育園をやっているわけですが、24時間保育だと思っています。どこに行っても保育園の園長として信頼を得られないことをしてはいけないと思っています。そのために、どこかで本当に息抜きができる、リフレッシュができる、色々なことが学べられる時間が必要だと思っています。例えば、先生が縁側でひっくり返って空をながめて、「空って青くていいな」と思うだけでいいのではないかと思うのですが。夏休みの研修におけるレポートなんかがあるのであれば、「空が青くていいな」の一言でいいのではないですか。何か感動したことがあれば、それを書いてもらえればいいのではないかという気がするのですが。

青木教育長...前回の議会でしたか、教職員の不祥事が起きた時に、ある議員さんから不祥事の背景として先生方の多忙感があるのではないかと、そういったことが不祥事を起こす一要因になっているのではないかと、という指摘を受けたことがあります。その多忙感をどう解消するかは非常に難しく、先ほどお話しがありましたリフレッシュ休暇も多忙感を解消する一つの手段かとは思いますが、実際学校においてリフレッシュ休暇を与えようとする多忙から限られた期間にとることしかできない。また、まとめてとることは非常に難しいことは事実です。先生方の多忙感を解消することは色々な問題を解決することに繋がることは事実だけれども、取ろうとしても中々取れない事情があります。

安藤委員長...確かに家庭教育や躾までを学校に求められている現実がある。そこまで、学校の先生に求められることが、どんどん増えてきている。うちに1ヶ月滞在していたドイツのミュンヘンのテレビ局の人の話によると、何十年間

か働いたら半年の休暇があると聞いたことがあります。すごいなと思いましたが、日本ではそこまでゆとりは無いのでしょうか、ゆとり教育が大事だと言ったときに、先生にゆとりを与えることが、結果として子ども達にとって良いことに繋がるのではないかと思います。そのために、私達がサポートしながらそのような環境が提供できるかを考えなければならないと思います。このような問題はそう起こってもらっては困りますが、実際根本的に解決に向かうのでしょうか。先生方の意識もしっかりしてもらわなくてはいけないのですが、どこかで先生方にゆとりを与えるような施策をしなくてはいけないと思います。

横田委員...今の話しは、根本的なところだと思います。あとは、国とか、保護者の方々の先生に対する意識ですか。昔、先生は偉かった。だれもが尊敬する存在でしたが、今はまさに逆、バッシングを受けダメだダメだと言われながら教師をやっている状況があるために、ある意味かわいそうだと思います。親のほうが自分の子どもが大切だと思うがゆえにかえって問題を難しくしている現状があります。ただ、先生方もそれに慣れてきちゃっていて、「どうせ先生は～」と最初から思っている先生もいるのではないですか。みんな理想を持ってやっていくことは大切だと思いますが、今の世の中はそれが難しくなっている。それをどのように解決していくかは考えていかなければならないと思います。

桑原委員...小田原市独自で休暇を与えることは出来ないのでしょうか。一ヶ月どうとうと休んでくださいとか。

青木教育長...学校では何故休めないかという、授業がありますから自習にするわけにはいかない、誰かが代わりをしなければいけない。代わりの方は休みが無くなってしまうことになります。

島田委員...夏休みはどうなのですか。

安藤委員長...子ども達が来ない時期に「学校に近づくな」ぐらいの時間を持たせることが出来ないのかな。仕事をしたい気持ちがあっても来てはいけない時間なのだと、でも、その辺が日本人の・・・。

桑原委員...一見まじめといいましょうか。

島田委員...本当に、本を読んだり、映画を見たり、色々なことをして人間は学んでい

かないと。

青木教育長...学校教育課長、小田原市だけ夏期休暇を10日間とか15日間とかにする
ことは制度的に可能なのかな。

学校教育課長...夏休みとしては、5日間になりますが、別にほとんどの先生が有給休暇を
何十日と持っていますので、結果として長期休暇は可能ですが、現実には
出来ていないようです。例えば中学校では部活指導に打ち込む教師がたくさんいますし、
小学校では2学期制ということもあり、基礎基本の徹底だとか普段の授業中では出来ない
体験をさせてあげたいとか、また、教育相談とか、どうしても子ども達に係わる
ことが中心となっていますので、現実には長期休暇をとることは難しい場合も
あるかもしれません。ただ、私どものところに海外旅行の届けが出てまいりますが、
かなりの数が出てきますので、この時期の海外旅行は、他の職業の方と比較すると
多いと思います。

安藤委員長...是非、休んでほしいと思いますが、私はこの間、中国に行ってきた
のですが、成田から帰る途中のバスで六本木を通った時に、夜8時ぐらいですか
まだ光々とビルに明かりがついているのですね。中国では夜6時には全部
引き上げてしまう。早い場合だと4時ぐらいに居なくなってしまう。そう
した時間や仕事の区切りといおうか、ちゃんとする必要がある。例えば、
校長先生が残っていると先生方が帰れないこともあるかと思しますので、
その変は配慮してもらいたいし、そのようなことが先生のゆとりに繋がっ
ていくと思います。中国から帰ってきてあらためて感じたのですが、日本
人は忙しいと、働きすぎだと。日本より貧しい中国は何であんなにゆった
りしているのだろう。仕事を夜8時までしている人なんていないですよ
ね。小田原市は電気がついているようですがね。

島田委員...教育が大事だ、大事だ、と言われているのに、どんどん先生方を追
い込んでいるような気がしますね。良い人材が教育界に集まらなくなると、ま
すます衰えていくような気がしますね。出来る限り優遇して、待遇を良くし
ないと本当に良い人材が他に行ってしまうような気がするのですが。

安藤委員長...本当にこのような事件は2度起きてもらっては困りますから、綱紀
粛正をしてもらうことはそれはそれで大事なことだと思うのですが、もっと人間

的な、根本的な、社会的なものから行うべきことがあるのではないのでしょうか。先ほども述べたように、24時間教育をする、24時間保育をすると、どこかで区切りをしないといけないのではないかと思いますし、うまく区切りをつけられるように先生方がなれば、うまくいくのではないかと思います。うちの保育園で一番遅く迎えにくるのは学校の先生ですからね。午後7時を過ぎることがあるし。学校の先生も大変だなと思うし、ただ、その分うちの職員も大変だと思いますが。

是非、このようなことを踏まえてみんなで考えていかないと、本当に穴が空いたらふさぐ、穴が空いたらふさぐ、というような対処療法的なことだけではとても解決できないと思います。最初に述べたように大人として分別、社会性を持ってもらう。また、教育に対する情熱を持ってもらうこと、本当はそれだけで十分なかもしれませんが。

この件については、県からの処分も出ておりますし、学校教育課からも綱紀肅正の話も出ておりますから、今後私達の話しを踏まえながら、今後このようなことが起こらないよう、更に良い方法を検討してもらいたいと思います。

それでは、ほかに御意見などもないようですので、「教職員の不祥事と今後の防止策について」を終わります。